

平成29年度評価結果における課題への取組みと進捗状況

地方独立行政法人長野県立病院機構

(1) 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

課題	課題への取組みと進捗状況（平成 30 年度上半期）
<p>(1)-1</p> <p>・各病院において、引き続き、患者ニーズと患者動向の把握に努め、質の高い医療サービスを効果的に提供していただきたい。</p>	<p>○ 信州医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から須高医師会、市町村との連携による対策型胃内視鏡検診が始まり、平成 29 年 7 月の東棟開設に伴い診療環境が向上した内視鏡センターと健康管理センターの連携強化によりがん早期発見機能及び予防医療の充実を図っている。 ・産科医療については、平成 30 年 4 月から常勤の女性産科医師を 1 名増員するとともに、産科医師の負担軽減と地域の分娩体制の維持を目的とした院内助産実施に向けて、助産師を「信州大学院内助産リーダー養成コース」研修に派遣し、体制の整備を図った。 ・今後も地域の関係機関との連携を強化し、疾病予防・健康増進から急性期・回復期医療まで様々なニーズに沿った医療の提供に努めていく。 <p>○ こころの医療センター駒ヶ根</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退院前の外出・外泊訓練による評価を多職種で実施することで、入院期間の適正化を図り、昨年度に比べ 3 ヶ月以内の再入院率を低下させることができた。 ・地域連携室を中心とした関係機関等への訪問により、地域のニーズを把握するとともに、総合病院におけるニーズに対しても効果的に対応できるよう体制整備を進めているところである。 ・中長期的には、国及び県の施策の中で当院が担うべき役割を見極め、関係機関と調整しながら計画的に進めていく。 <p>○ 阿南病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下伊那南部地域の中核病院として、地域の医療需要に応じた診療体制の充実を図り、住民のニーズに応える地域医療を推進していく。 <p>○ 木曽病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曽地域の高齢化の進展に伴う医療ニーズの変化に対応するため地域包括ケア病棟、患者サポートセンターを開設し、患者の状況に即した医療サービスを提供できる体制を整えた。 ・介護医療院の開設を検討、開設準備を進めている。 <p>○ こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当院は紹介型の病院であるため、県内の主要病院や近隣県の病院を直接訪問して患者動向の把握に努めるとともに、当院の取組みを説明する等の取組みを行っている。

課題	課題への取組みと進捗状況（平成 30 年度上半期）
<p>(1)-2</p> <p>・今後も地域に必要な医療を提供していくため、県や関係機関と連携しながら、経営状況等を勘案の上、必要な人材の確保と育成に努めていたきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・医師確保については、医師臨床研修マッチングにおいて、多職種協同による活動の結果、定員の 2 人を確保した。 ・資格職種の求人に当たり、正規職員としての雇用を求める声がハローワーク等を通じ多く寄せられているため、本部と連携し、採用試験を随時実施するとともに、人材派遣会社を活用し、産育休取得者、退職者の補充に努めた。 ・職種ごとに資格取得等研修派遣計画を策定するなど、計画的な育成に努めている。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・欠員に対してハローワークへの求人募集など迅速に対応し、早期採用に努めた。 ・各セクションの業務のやり繰りを通じて、各種研修会に参加しやすい環境づくりを行った。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療機関等で行う合同就職ガイダンスへ参加し、病院からの情報発信に努めている。 ○ 木曾病院 <ul style="list-style-type: none"> ・医学生を対象とした病院見学会を開催し、県内高校生を対象とした医療体験を計画するなど、将来的な人材の確保に向けた取り組みを行っている。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・全国から医師をはじめ多職種の人材を確保するため、当院で働くことの魅力を高め、情報発信することが重要である。 ・このため、信州大学との連携大学院の開校、病院独自の研究助成、独自のセミナー開催などに取り組んでいる。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬改定に対応し、医療機能の再編・強化を踏まえた必要な人員確保に努めている。 ・県や信州大学を通じて医師の派遣を受け、地域に必要な医療を提供するための職員配置を行っている。 ・研修体系や個別研修計画の概要を示した「平成 30 年度職員研修会」を冊子にして周知を図り、研修の充実と受講促進を図った。

課題	課題への取組みと進捗状況（平成 30 年度上半期）
<p>(1)-3</p> <p>・信州医療センターにおいて、産科の常勤医師を確保し、分娩業務を再開することができた。今後も分娩数の増加に向けた積極的なPR活動を継続し、須高地域の産科医療機関としての役割を果たしていただきたい。</p>	<p>○ 信州医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩取扱い再開及び医師増員等による産科医療の充実について広く周知するため、5月のプレマイベントでのブース出展や、ママ向け雑誌への3号連続掲載など、ターゲットを絞った広報活動を開始した。 ・安心して療養・出産できるよう、ニーズの高い個室を増室するとともに内装をリニューアル（12月を予定）し、分娩件数の増加を図っている。 ・今後もホームページ等を活用しながら積極的かつ効果的なPR活動を行い、地域の産科医療の充実に貢献していく。
<p>(1)-4</p> <p>・信州医療センターにおいて、内視鏡センターを増床し、機能拡充を図ったところだが、内視鏡検査件数については目標と大きな乖離が生じている。収益に見合う投資という観点で分析するとともに、課題を分析のうえ、件数増の取組を一層進めていただきたい。</p>	<p>○ 信州医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年7月から市町村、須高医師会と連携し対策型胃検診の受託を開始したことにより、検査件数の増加が見込まれる。 ・9月に市民公開講座「増えつつある大腸がんの検査と治療について」を開催し、内視鏡検査による大腸がんの早期発見の重要性及び当院の診療体制のPRを行った。 ・今後、投資に対する分析方法を検討するとともに、引き続き地域医療機関との連携、PR活動を強化し、内視鏡検査件数の増加に向け取り組んでいく。
<p>(1)-5</p> <p>・信州医療センターにおいて、県立5病院の中核的な病院として、民間病院で行われている経営分析を積極的に採用するなど、他の4病院に先んじた取組みを行っていただきたい。</p>	<p>○ 信州医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療科別の患者数及び収益と月次損益の状況について分析を行い、毎月の運営会議や全体朝礼を通じて全職員で共有している。 ・医薬品や診療材料、医療機器等の購入に際して、ベンチマークデータを活用しており、特に診療材料については、使用実績が多い診療科を中心にメーカー及び卸業者と分析データを基に価格交渉を重ねて費用削減に努めている。
<p>(1)-6</p> <p>・こころの医療センター駒ヶ根において、平均在院日数の短縮や地域生活支援などにより地域移行の推進に努めていただいたが、引き続き職員給与費対医業収益比率に注意しつつ取り組んでいただきたい。</p>	<p>○ こころの医療センター駒ヶ根</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定した地域生活を送るためには、入院治療を適切な期間をかけることが必要のため、入院時から退院後を見据えた支援を行った。その結果、3ヵ月以内の再入院が減少し、診療単価が上昇している。 ・年間通じて高い病床稼働率を維持するため、入院患者の計画的な受入れの検討を始め、医業収益のさらなる確保を進めている。 ・平成29年度の当院の職員給与費対医業収益比率は、全国の県立精神科病院の中では中位であり、他院の動向にも注視しながら、引き続き、収益確保、適切な人員配置や業務の効率化を図る。

課題	課題への取組みと進捗状況（平成 30 年度上半期）
<p>(1)-7</p> <p>・阿南病院において、訪問診療や訪問看護については、関係機関と調整のうえ、引き続き地域のニーズに合わせて提供していただきたい。</p>	<p>○ 阿南病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療総合支援センターにおいて、訪問診療・看護・リハビリ・服薬指導等を積極的に実施し、特に重度の患者に頻回の訪問看護を行うなど、在宅での療養生活を継続できるよう支援している。 ・今後も地域ニーズに合わせて、提供していく。
<p>(1)-8</p> <p>・木曾病院において、入院患者数が減少傾向にあること、さらに病床利用率が前年度から大幅に低下したことから、木曾地域唯一の病院として、地域に必要な医療を持続的かつ効率的に提供できるよう努めていただきたい。</p>	<p>○ 木曾病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度の決算に基づく損益分岐点から 1 日当たりの入院患者数 129 名を算出し、院内全体で共有し目標を達成するためにキャッチフレーズを職員から募集「1 歩 2 歩 9 ろじ（黒字）」とし、入院患者の確保に努めている。
<p>(1)-9</p> <p>・こども病院において、発達障がい等の診療ニーズの増加など、小児・周産期医療に求められる役割の変化に対応するため、医療人材を育成するとともに、診療ネットワークの構築や拡充に取り組んでいただきたい。</p>	<p>○ こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信州大学との連携大学院開講を活用し、全国から優秀な医療人材を確保するとともに、変化に柔軟に対応できる人材の育成を進めていく。 ・当院のこれまでの取組みをベースに、様々なチャンネルを活用し、診療ネットワークの充実に取り組んでいく。
<p>(1)-10</p> <p>・信州木曾看護専門学校において、恵まれた学習環境や特色あるプログラムなどの強みを、県内外の学生に対し周知することにより、引き続き、学生確保に努めていただきたい。</p>	<p>○ 信州木曾看護専門学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・64 校の高校へ訪問を行い、進路ガイダンスを 6 回実施した。また、オープンキャンパスを 2 回実施し、194 人の来場があった。 ・校内に広報委員を設置し、ブログを始め様々なメディアを通し情報の発信に努めた。
<p>(1)-11</p> <p>・本部事務局において、人員増による体制強化が、十分に効果を発揮するよう、法人運営に取り組んでいただきたい。</p>	<p>○ 本部事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年 4 月に、本部及び病院事務部の組織改正を実施し、以下のとおり効果が得られた。 <ul style="list-style-type: none"> 本部に改革統括医療監・理事、改革担当次長及び経営戦略担当次長を配置し、看護・医療技術職員の適正な配置についての検討を始めた。 本部に診療報酬に精通した担当を配置し、各病院の収益増対策の進捗状況を本部・病院間で毎月チェックできるようにした。 ・病院の課・係及び分掌事務の統一化により、次長・総務課長会議、医事課長会議及び経営企画課長会議の開催が可能となり、病院間の連携強化が図られている。

(2) 業務運営の改善及び効率化に関する事項

課題	課題への取組みと進捗状況（平成 30 年度上半期）
<p>(2)-1</p> <p>・平成 29 年度に作成し取組を始めて いる経営改善プログラムについて、 引き続き取組を進めるとともに、進 捗を管理し、成果と課題を分析する ことで、より実効性の高いプログラ ムとしていただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・収益確保及び費用削減の取組を進めるとともに、全部署を対象にした 院長ヒアリングを実施し、P D C Aによる進捗管理と成果及び課題の 分析を行っている。 ・状況変化に対応して経営改善プログラムの改善見込を見直し、新たな 増収策や費用削減策の検討及び実践を行っている。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・四半期ごと進捗状況を検証している。 ・収益増に係る取組みについては病院運営会議の報告事項として実績を 共有し進めている（思春期デイケアは下半期で取組み）。費用削減につ いては事務部を中心に取組み、計画どおり進んでいる。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・経営改善プログラムについては各科から増収案等が提案され、その実 行に取り組み結果として収益が増となった。 ・経営企画会議において経営改善プログラムの進捗状況を検証し、見直 しを実行した。 ・アクションプラン（各科の目標）も検証し経営改善に繋げた。 ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の月次決算の状況をまとめ、分かりやすく解説するとともに各部 署の取組みを紹介する「経営改善ニュース」を発行し職員の意識の醸 成とプログラムの着実な推進を図っている。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・経営改善プログラムを進めるとともに、アレルギー負荷検査を日帰り 入院で実施するなど、新たな取組みを順次柔軟に実施している。 ・経営企画室会議を中心に進捗管理、課題分析、実施決定を行ってい る。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・経営改善プログラムの取組みにより、経営改善に関して平成 29 年 度には+143.6 百万円の計画に対して+219.6 百万円の改善効果があっ た。 ・平成 30 年度計画では、+21.9 百万円の経営改善を図るべく取組みを 行っている。

課題	課題への取組みと進捗状況（平成 30 年度上半期）
<p>(2)-2</p> <p>・病院運営に組織がこれまで以上に一体となって取り組むため、医師を始めとしたすべての役職員の経営参加・協力を一層進めていただきました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 役職者を対象とした運営会議を毎月開催し、運営動向及び月次決算を踏まえた経営状況の分析報告、各部門の業務実績報告を行い、経営状況の全職員への周知と方向性の徹底を図っている。 ・ 毎月の全体朝礼において、全職員に向けた院長からの経営状況説明や P D C A の実施により、組織全体の経営参加・協力を図っている。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 役職員に限らず病院への帰属意識を高め、経営参加・協力を一層高めるため、病院運営会議において決算状況を説明するとともに、院長との意見交換会の実施や院内広報誌のリニューアルなどを行った。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月 1 回行っている運営会議において、経営状況表の分析報告を行い経営状況について職員に周知を行うとともに、各セクションに赴き打合せ等に併せて説明会を開催し、経営改善の意見交換を行った。 ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月に 2 回開催する運営会議のうち、1 回を全職員が参加可能とし、患者数や決算状況の認識の共有を図るとともに、損益分岐点分析から入院患者数の目標を定め、1 歩 2 歩 9 ろじ（129 人/日）のキャッチフレーズの下、組織全体の経営参加・協力を図っている。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに診療部医師 2 名を経営企画室メンバーに加え、より現場の意見を汲み上げた経営改善の機能を拡充した。 ・ 未来志向型である経営企画室プロジェクトを計画し、様々な職員から経営や患者ニーズに応える立案を受け、プロジェクトとして進行させた。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中長期ビジョンの策定に当たっては、病院・学校・研修センター及び本部事務局の各部門職員の積極的な参画を促した。 ・ 病院等へのヒアリングの際には、院長、副院長、各部長のほか、関係職員の参加により意見交換を行った。

課題	課題への取組みと進捗状況（平成 30 年度上半期）
<p>(2)-3 機能の新設・拡充や投資を行う場合には、常に経営状況を考慮のうえ、費用対効果を重視し、その後の検証も十分に行っていただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・医療機器、施設設備ともに老朽化が進み、診療機能を維持するために早急な更新が必要な状況であるが、優先度を精査し更新を行っている。 ・産科病棟のアメニティ向上や地域包括ケア病棟の在宅復帰支援機能の強化のための病棟改修など、地域医療ニーズに応えるための機能拡充事業の準備を進めている。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・機能の拡充等に当たっては、地域のニーズと国等の政策との整合を図りながら行っている。 ・投資に当たっては、故障対応困難なものを優先して更新を行っている。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・資本的支出を決定する場合は院内の医療機器等購入調整委員会で経営状況を踏まえて必要性等を審議し、必要な機器の購入に努めている。 ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・院内の医療機械等購入委員会において、各部門の要望を集約し、経営状況・必要性等を踏まえて検討を行い、購入等の可否を決定した。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテ更新に合わせた医療機器や関連システムを統一化することや各種データのクラウド化による経費削減を検討した。 ・医療機器の更新に関しては機能だけでなく金額を精査し、資金計画を入念に立てていく。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・医療機器の導入に際し、医師、医療技術者の代表等から構成される医療器械等審査部会で、効率的かつ効果的な取得を図る観点から審査し、購入の可否等の判断を行った。 ・過去に導入した医療機器について、想定どおりの費用対効果が得られているか検証し、利活用策について検討した。

課題	課題への取組みと進捗状況（平成 30 年度上半期）
<p>(2)-4</p> <p>・病床利用率について、すべての病院が目標を下回ったことを踏まえ、病床利用率向上に向けた短期的な取組を行うとともに、中長期的な視点による病棟規模の適正化の検討を進めていただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 院長や連携室職員による地域の診療所等への積極的な訪問など地域連携強化の取組を行い、紹介患者数の増加や新入院患者数の増加を図った。 ・ タイムリーに院内へ病床利用率を発信し、損益分岐点となる目標値達成へ向けて全職員の意識向上に努めた。 ・ 中長期的には、地域の医療需要・疾病推計に応じた診療体制及び地域政策医療としての産科医療体制の充実、地域包括ケアシステムを支えるための病棟活用などにより、須高地域の中核病院としての機能を果たしていく。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携室において、近隣のクリニックを訪問し、連携強化を図っている。 ・ 病床利用率は目標を下回っているものの、平成 25 年以降は毎年度向上し、平成 29 年度は過去最高となっている。 ・ 病床利用率は変動が大きく、年間通じて安定させることが課題になっていることから、入院患者の計画的な受入れについて検討を始めたところである。 ・ 病棟規模については、県の施策や他医療機関の動向を勘案しながら検討する。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減が進む当圏域における阿南病院の役割を明確化し、地域医療を推進するために必要な病床数見直しの方向性を出すため、病棟再編ワーキンググループを開催し、検証を行った。 ・ この結果を踏まえ、当院の病棟再編について、適正な病床規模の方向性を決めて行く。 ○ 木曾病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括ケア病棟を開設するとともに許可病床を減らし、効率的なベッドコントロールに努めている。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 北信越唯一の小児専門病院という立地特性や特徴ある診療部門を活かした県外からの患者増加、地域医療支援病院承認を契機とした地域の医療機関との連携強化を進め、患者数の維持、増加に取り組んでいる。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の月次報告に基づく経営分析のほか、収益増対策として、入院患者数の動向や収益確保につながる診療報酬点数について情報共有を図る取組を始めた。 ・ 中長期的には、地域医療構想の動向を注視しつつ、病床規模の適正化について検討する。

課題	課題への取組みと進捗状況（平成 30 年度上半期）
<p>(2)-5</p> <p>・職員給与費対医業収益比率について、前年度からは改善したものの、依然として高い状況にあることから、人員配置の適正化計画を速やかに策定し、適正かつ効率的な人員配置に向けた取組を実行していただきたい。また、給与制度については、これまでに順次見直しを行ってきた努力を認めるが、病院機構の健全な経営に向け、更なる給与制度の見直しに取り組んでいただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・病床利用及び医療・看護必要度に応じた適正な人員及び職種配置に努めるとともに、育児短時間職員の勤務スタイル見直しを行い、配置人数の適正化を図っている。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・期間限定雇用職員の採用にあたっては、職員採用の必要性について本部事務局と十分協議した上で求人を行い、人員配置の適正化に努めている。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情に見合った診療体制の充実を図りながら、適正かつ効率的な職員配置を検討していく。 ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・有期職員の職員数について見直しを行い、育児短時間勤務者の有効活用等適正な人員配置に努めた。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・費用対効果を厳しく分析した上で、収益向上につながる人員配置に取り組むとともに、機構本部と連携して給与制度の見直しに取り組んでいく。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・看護部適正人員数の検討を行い、配置部署ごとの適正人員数について試算した結果を9月の院長会議で報告し、今後の適正化に向けた方向性を確認した。 ・給与制度については、給料の調整額及び特殊勤務手当の見直し等を検討し、組合へ事前協議など妥結に向けた交渉を開始している。

課題	課題への取組みと進捗状況（平成 30 年度上半期）
<p>(2)-6</p> <p>・厚生労働省で検討が進められている「医師の働き方改革」については、引き続き、動向を注視し、タスクシフト等の検討を進めるなど、柔軟な対応をしていただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・管理職を中心としたメンバーによる「働き方改革関連法対応プロジェクトチーム」を平成 30 年 9 月に設置し、定期的な会議において、医師をはじめとした働き方改革の具体的な取組みについて検討を開始している。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・デイケア科に非常勤職員 1 人を配置するとともに、病棟における薬剤業務強化のため薬剤科に委託職員 1 人を配置し、タスクシフトを推進している。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・これまで看護師（初診時の予診等）、医療クラーク、薬剤師等（服薬指導等）の多職種によるタスクシフトに取り組んでおり、医師の働き方改革の趣旨を踏まえ、これらの徹底を図る。 ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・医師連絡会議にて、勤怠管理方法について検討を行っている。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでも医師負担の軽減を図るため、医師事務作業補助者を 13 人配置するなどタスクシフトを進めてきたが、今後はNICU医師の交代制勤務導入など抜本的勤務体制の見直しなど大変難しい課題に取り組んでいきたい。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・担当職員を研修会へ派遣するなど情報収集に努め、7月と8月の事務部長会議及び9月の院長会議に報告した。 ・特に、医師の勤務状況把握や自己研鑽のあり方等について、今後取り組む方向性を議論している。

(3) 財務内容の改善に関する事項

課題	課題への取組みと進捗状況（平成 30 年度上半期）
<p>(3)-1</p> <p>・職員の経営分析力を一層高め、経営を多角的に分析することで、財務内容の改善に向けた取組を一層進めてもらいたい。</p>	<p>○ 信州医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の運営会議や全体朝礼を通じて、経営状況や病院の方向性を共有し、職員の経営参画意識の醸成を図っている。 ・経営企画室会議を中心として、多職種のワーキンググループによる診療単価向上策の検討、医療・看護必要度の分析状況を院内で共有して診療報酬改定に対応した入院料の基準を維持するなど、経営改善の取組を継続している。 <p>○ こころの医療センター駒ヶ根</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月一度の病院運営会議において、経営状況、原因分析及び改善策について報告するとともに、その報告内容を「病院運営だより」により、全職員に対して分かりやすく説明するなど、経営分析力の向上に努めている。 <p>○ 阿南病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員が病院の現況、今後進んでいく方向を共有するため、年度計画、経営状況を分かりやすく解説するための説明会を各科ごとに実施し、職員も病院経営の当事者であるという意識づけに繋がった。 <p>○ 木曽病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の月次決算の状況をまとめ、分かりやすく解説するとともに各部署の取組みを紹介する「経営改善ニュース」を発行し職員の意識の醸成を図っている。（再掲）(2)-1 ・経費削減チームを結成し、財務内容の改善に取り組んでいる。 <p>○ こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに診療部医師 2 名を経営企画室メンバーに加え、より現場の意見を汲み上げた経営改善の機能を拡充した。（再掲）(2)-2 <p>○ 本部事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事会、看護部長事務部長会議等を通じて財務状況を報告するとともに、財務改善に資する新たな提案等の意見交換を行った。
<p>(3)-2</p> <p>・平成 29 年度に作成し取組を始めている経営改善プログラムについて、引き続き取組を進めるとともに、進捗を管理し、成果と課題を分析することで、より実効性の高いプログラムとしていただきたい。（再掲）</p>	<p>(再掲) (2)-1</p>